

報道関係各位

(報道発表資料)
令和5年5月17日
北九州市保健福祉局感染症医療政策課
(担当:河崎・奥)
電話:(093)582-2430

E型肝炎の発生について

市内において、E型肝炎(4類感染症)の発生届がありましたので、北九州市感染症公表要領に基づきお知らせいたします。

患者	①	②
概要	令和5年5月16日(火)、市内 A 医療機関(八幡西区)から届出があった。	令和5年5月16日(火)、市内 C 医療機関(八幡東区)から届出があった。
患者情報	八幡西区在住、70 歳、男性	小倉北区在住、30 歳、女性
経過	5月7日(日) A 医療機関受診。 肝機能異常、発熱(38.7℃)あり、入院。 5月8日(月)血液検査を実施。 5月16日(火)検査の結果、E 型肝炎と判明。 症状軽快し、退院。	3月下旬 微熱症状が2週間継続。 4月5日(水)健康診断で肝機能異常あり。 4月13日(木)B 医療機関を受診。 肝機能異常あり。 4月14日(金)C 医療機関を紹介され受診。 血液検査を実施。 5月16日(火)血液検査の結果、E 型肝炎が判明。
現在の状況	通院中(症状なし)	症状なし
感染原因	不明	不明

※患者①、②に関連はありません。

【行政対応】 患者に対する健康調査の実施と感染拡大防止の指導を実施。

【E型肝炎の北九州市への届出状況】(令和5年5月17日現在)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
発生届出数 (単位:人)	1	4	0	2	1	3 (本件含む)

【その他】

患者の個人情報については、プライバシー保護の観点から、提供資料の範囲内にさせていただきます。ご理解の上、特段のご配慮をお願いいたします。

【E型肝炎について】

別添参照

《E型肝炎について》

➤ 症状

E型肝炎は、E型肝炎ウイルスの感染によるもので、感染してから15～50日間(平均6週間)の潜伏期間を経て、急な発熱、全身のだるさ、食欲不振、吐き気・嘔吐が見られ、数日後に黄疸(皮膚や目の白い部分が黄色くなること)がみられます。

症状が軽い場合もありますが、重症の場合、回復するまでに数週間から数か月かかることもあります。妊婦ではE型肝炎が重症になることが通常より多くなり、死亡する可能性も高くなります。

特異的な治療法はなく、対症療法が中心です。

➤ 感染経路

ウイルスに汚染された水や氷、野菜や果物、肉類を生で食べることによって感染します。ブタ、シカ、イノシシ、ウシなどの多くの動物がE型肝炎ウイルスに感染することがわかっています。

➤ 感染防止のポイント

- ・便を介して感染する可能性があるため、食事前に手を洗うことが基本です。
- ・生ものを調理した際は台所用塩素系漂白剤などで調理器具を消毒しましょう。
- ・ブタ、イノシシ、シカなどの肉や内臓は、生食を避け、中心まで十分に加熱しましょう。
- ・動物の内臓、特に豚レバーを食べる際には、中心部まで火が通るよう十分に加熱することが重要です。食べる前の調理の段階でも、皮膚の傷からウイルスが体内へ入ることのないうように注意してください
- ・渡航先では生水、氷入りの飲み物、加熱していない食物に注意が必要です。